

高岡市立博物館に親しむ会

KA II MARU 鍛冶丸

第11号

平成31年
3月1日



郷土史を訪ねて①「歩く博物館」

『富山市の寺院に、高岡を垣間見る』平成30年7月13日(金)

とうきよさん ふせんじ
藤居山 富山寺(富山県富山市) ※「富山」の地名の由来とされる寺院。

主な内容

- ・ 歩く博物館雑感 2
- ・ ますます磨きがかかる“走る博物館” 3
- ・ 牧野で南北朝の歴史を歩く 4
- ・ 「小矢部川を呑む」に参加して 5
- ・ 親しむ会 呈茶席 6
- ・ 茶室「松聲庵」のご案内、2019年度 会員募集のご案内 6

高岡市立博物館に親しむ会 会報第11号

■事務局 〒933-0044 高岡市古城1-5 高岡市立博物館内

TEL 0766-20-1572 FAX 0766-20-1570

HPアドレス <http://www.e-tmm.info/> メールアドレス info@e-tmm.info

歩く博物館 第23回 富山市の寺院に、高岡を垣間見る

歩く博物館雑感

平成30年7月13日(金)

高岡市立博物館に親しむ会 会員(比奈の会 会長) 金子 榮子



富山中教院

終戦の年の2月生まれの私には、「富山」と聞くとどうしても浮かんでくる思い出がある。小学生だった頃の私にとって、富山行きは大きな、そしてまたとない出来事だったのだろう。土木工事現場を利用したような移動動物園と幌をかけた平ボデのトラックの荷台に「声をださぬように」と約束させられて乗せてもらって見た富山の花火。60年後の垢ぬけした富山を目の当たりにしていても、思い出が重なってしかたがない。花火は今年も自宅で遠く音を聞いた。移動動物園はどの辺が会場だったのか、未だはつきりしない。

『富山市の寺院に、高岡を垣間見る』に参加した理由はいくつかある。まず、思い出の光景と現在の富山を、私なりに関連させる手掛かりを何かしら得たかったこと。伏木にある勝興寺は幸い自宅近くにあり、出不精の私でも慣れ親しんできた。その勝興寺の「富山通坊」がコースにあったこと。「あいの風とやま鉄道」や「市電」を利用することも魅力だった。

富山駅から市電に乗り換え、西町停留所から歩き始めるとほどなく、広大な「勝興寺富山通坊」の敷地に入ったと説明を受けた。今はビルや商店などが建ち並び、川べりも美しい風景に約350年前の寺院群を思い描くには知識がなさすぎる自分を実感しながら、現在の「中教院」に立つことになった。なんと、あまりにも小さな鳥居にびっくりであった。この後も昼過ぎまでかなり暑い日差しの中を、富山城と関連が濃い寺院群や富山大空襲後に耐火構造となったエキゾチックな建物・寺院などを樽谷先生に案内していただいた。船運や米蔵などと関連はあるものの、高岡城からはそこそこの距離の伏木、近代港で栄えた伏木、他に類を見ない浄土真宗城郭伽藍を今に伝える勝興寺に軸足を置く私には、新鮮なお話や驚きばかりで埋まった半日だった。



コンクリートの寺院

明治になって「富山通坊」の敷地が削られ、神仏合同の布教活動の下部機関として各府県に設けられたのが「中教院」との事。では「富山通坊」はその後、どうなったのか。両側の建物にはさまれて本当に窮屈な鳥居の現在の「中教院」になるまで、経緯がありそうだが、国の政策と財力と心の支えの寺院、神社を理解することはなんとハードルが高いことか。でも、天からおかまいなしに覆い広がる激烈な暑い陽を眩しくてまともに見れない日々が過ぎ去った頃、多分私はまた再びこの地に訪れているような気がする。

高岡市立博物館 オリジナルトートバッグ

好評
発売中!

神保成伍氏(元高岡市立博物館長)の手による博物館の外観を描いたイラストがプリントされています。A4サイズの書類がぴったりに収まる便利な大きさで、当館での講演会・講座等の資料を持ち運ぶのにも最適です。

博物館にお越しの際は、ぜひお買い求めくださいませ!



親しむ会会員: 1,000円(税込)

— 一般: 1,200円(税込)

材質: 綿100%

スペック: 幅36×高さ37×底まち16cm

容量 約10ℓ

持ち手: 2.5×47cm



走る博物館 第4回「加賀騒動」を石川県・加賀・能登で知る

ますます磨きがかかる“走る博物館”

平成30年9月14日（金）

高岡市立博物館に親しむ会 副会長 晒谷 和子

今回の走る博物館は、『「加賀騒動」を石川県・加賀・能登で知る』をテーマに、樽谷研修部長の案内で高岡ICから能越自動車道に入り、氷見ICでおいて羽咋へ向かった。

まずは妙成寺。当山は日蓮宗の本山で、現在の建物は初代・前田利家から五代にわたって建造された。ことに三代・利常は生母・寿福院の菩提所として本堂・祖師堂・五重塔等を建立。桃山建築の雄渾華麗な姿に圧倒される。導かれるまま五重塔の奥へいくと、なんとそこに今回の旅の主役・大槻伝蔵の墓があった。ただの観光客なら気づかず通り過ぎるところだ。江戸中期、六代藩主・吉徳に抜擢された大槻伝蔵は、吉徳亡きあと越中五箇山へ配流される。その後「加賀騒動」といわれる八代・

重熙と浄珠院への毒殺未遂事件に絡んでいたとされ、伝蔵は自害。主犯とされた吉徳の側室・真如院は自ら望んで絞殺された。今日、この事件は守旧派の中心人物であった前田直躬らによりでっち上げられたとされる。

昼食は大野町の発酵食美人食堂で美人ランチ。大野は藩政期から醤油・味噌造りが盛んでバスから降りたら醤油の美味しい香りが漂ってくる。食堂にはいっぱいの人。しばし待って食事にありついた。一口ひとくち美しくなっていくような錯覚に陥り、売店で醤油の爆買い。その後のソフトクリームのおいしかったこと。

午後は伝蔵が茶坊主だった波着寺を参拝し、現・石川県政記念しいのき迎賓館へ。伝蔵の屋敷から移植したといわれるシイの巨木は、伐採しようとするつもりがあると伝えられ、今も健在だ。次は伝蔵の屋敷に祀ってあったと伝わる地蔵尊・現片町の新天地・出世地蔵を眺めたあと、屋敷の遺構が残る法船寺では、建物に比して屋根が

異様に大きくカーブを描いた医王堂の前で、伝蔵の権力の一端を垣間見る。

最終コースは真如院（加賀騒動の主犯にされた）が住んだ金谷御殿の現東神門の建築美に感嘆し、経王寺の真如院の墓にお参りした。

樽谷先生の詳しい案内で、現地を歩いて目でみる「加賀騒動」モリモリコースに知的欲求を満ち、くわえて館長のはからいで往きに菓子袋、復りに果汁100%のジュースをもらって子供心に還り大喜びする充実の一日だった。怪我なく事故もなく無事の帰還、皆様に感謝。合掌。



大槻伝蔵の墓前にて



法船寺 医王堂

● 高岡古文書ボランティア 募集要項 ●

1 参加条件

- 《必須》「高岡市立博物館に親しむ会」会員
- 《次のいずれか》
- ・古文書講座を受講したことのある方（博物館「初めての古文書教室」以外の講座でも可）
- ・古文書調査や整理の経験のある方

2 参加費

なし（ただし「高岡市立博物館に親しむ会」の入会必要）

3 参加方法

申し込み不要（当日、博物館までお越しください）

4 活動場所

高岡市立博物館 2階 第2企画展示室

5 活動日時

毎月第3土曜日の午後2時～3時30分に開催

2019年度の活動予定日

4/20、5/18、6/15、7/20、8/17、9/21、10/19、11/16、12/21、2020.1/18、2/15、3/21

6 事業担当

仁ヶ竹 亮介（高岡市立博物館 主査学芸員）

高岡市立博物館に親しむ会 事務局

〒933-0044 高岡市古城1-5

TEL 0766-20-1572 FAX 0766-20-1570

メールアドレス：info@e-tmm.info



牧野で南北朝の歴史を歩く

平成30年10月12日(金)

高岡市立博物館に親しむ会 会員 渋谷 幹男

10月12日、『牧野を歩いて“南北朝”を語る』がテーマの1万歩ウォークに参加した。語り部はもちろん、「よんべの酒から始まる名調子で歴史、地域の伝達を踏まえ冗談も交えた軽妙な解説が楽しい樽谷先生」だ。

まず、牧野と南朝の関わりとは、後醍醐帝の九皇子の中の第八皇子・宗良親王^{むねよし(なが)}が劣勢の南朝方の軍勢を募るため陸奥の国へ船で向かわれる途中に遭難し遠江に漂着^{い い のや}、井伊谷の井伊氏のもとに身を寄せられたが、北朝方軍勢によって井伊谷城が落城したあと越後寺泊などに潜匿^{せんたく}、さらに1342年に越中の射水郡奈呉の浦に着かれ、牧野の村に潜匿し、その後1344年に信濃・伊那の香坂氏^{こうさか}に招かれるまでの間、牧野に住まわれた。

以下、中曽根神社を起点に万葉線庄川口電停に至る間の牧野地域に点在する宗良親王に関連する史跡を巡ったので紹介する。

ほっかんづか 【樸館塚】

文化7年(1810年)、長福寺住職が宗良親王潜匿^{ぼくちやく}の地であったことを追慕して建てた石碑(牧野に潜匿中に住まわれた仮御所が飾り気のない樸直な建物であったことから、樸館塚と呼称された)。石碑は明治35年の庄川改修工事の際に現在地に移された。石臼状の御影石の台座の上に幅奥行ともに約30cm程、高さ60～70cm程の青緑がかった濃いグレーの凝灰岩^{ぎょうかいがん}と思われる石(この辺であれば庄川の金屋石か?)の正面に「八宮樸館塚」、石の左右と裏面には漢文がぎざまれている。

じげんざん ちようふくじ 【慈眼山 長福寺】

宗良親王が牧野村に至った刻には日暮れてしまい、宿を借りた野寺こそ長福寺であった。その時に親王が詠まれた歌“おもひきやいかに越路の牧野なる草のいほりにやとからむとは”の歌碑が、本堂前の経堂脇にあった。また、この寺は明応年間(1492～1501年)の住職・信西^{しんさい}が河童から『骨接ぎの秘伝』を授かったと伝えられ、本堂に信西住職と河童の像が祀られ、「あやまちの寺」としても有名である。さらには、庫裏の前にある二階建ての茅葺^{かやぶき}の山門も一見の価値がある。

しんじしやあと 【神霊社跡】

村社白山宮の鳥居を背に北方向に30～40m歩くと、右側に神霊社跡を示す石碑がある。宗良親王が雪見岡という高台から見る立山の雪をこのうえなく愛でられ、“^{ふる}枝さとの人に見せはやたち山の千とせふるてふ雪のあけほの”と詠まれたことを追慕して、雪見岡に潜匿^{せんたく}の地を示す石碑を建てたが、明治35年の庄川改修工事の際に現在地に移し、また川底に没した聖蹟^{せいせき}のために有志が宗良親王を祀る神霊社を創建した。潜匿^{せんたく}の地を示す石碑は樸館塚と同様の寸法で、正面には「後醍醐天皇第五皇子中務卿征東大將軍宗良親王潜匿^{なかつかさきょう}之地」とあり、左右の面には先に紹介した2首を含むこの地で詠まれた4首の歌がぎざまっていた(宗良親王は後醍醐帝の第八皇子が定説であろうが、この石碑では第五皇子となっていた)。



樸館塚



慈眼山 長福寺



神霊社跡

こうりゅうさん とうこう じ 【高柳山 東弘寺】

『東弘寺縁起』によれば、当時親鸞聖人が下総で建立された道場で、建立時の檀家で下総国主の豊田四郎治親は親鸞聖人に帰依し直弟子となり、同寺第二世となったが、七世住職の代に戦乱で東弘寺が焼失、七世は戦乱を避け、当時北陸で布教中の蓮如上人の徳をしたって越中にきて上人に奉仕した。たまたま牧野の地に宗良親王の守り本尊の千手観音を祀る観音堂があり、堂守が観音堂を七世に寄進したため、この地で東弘寺を再興、二十四世に至っている。この寺も庄川改修工事にともなって現在地に移転された。

以上、樽谷先生の解説で牧野を巡り地域の意外な歴史を堪能した。お世話頂いた博物館職員の皆様に感謝する。

小矢部川を呑む 福光(西砺波郡)から高岡を眺める—【成政】

「小矢部川を呑む」に参加して

平成30年10月26日(金)

高岡市立博物館に親しむ会 会員 般若 陽子



松村氏・河合氏・谷村氏の生家や生家跡が続く

十月二十六日、秋晴れの好日に「小矢部川を呑む」に参加しました。出発に先立ち、博物館の三階にて樽谷雅好研修部会長より『石黒荘と石黒氏』と題したレクチャーを約一時間受講して、一路バスで福光へ。

福光の中心部にある本町通りという広い通りを一本横に入ると、かつての県西部の偉大な政治家・松村謙三氏、“世界のコマツ”の異名を持つ小松製作所社長・河合良成氏、中越鉄道や経済界の勇君・谷村一太郎氏の生家や生家跡が続く小さな通りがあります。そこは私の住む金屋町のような雰囲気を感じられ、ホッとする空間です。そして広大な福光公園のすぐ側に建つ松村記念会館は、氏亡きあと松村謙三顕彰会から旧福光町へ寄贈されましたが、「アジアの平和は、日本と中国がしっかり手を結び合わないと実現しない」という氏の信念が所々に活かされ、故・田中角栄氏の日中国交正常化の礎を築かれたことを強く語っています。また、この公園には棟方志功記念館“愛染苑”^{あいぜんえん}も隣接しており、志功の住居跡の“鯉雨画齋”^{りゅうがさい}もあります。愛染苑の職員の方のお話もとても興味深く、志功やその家族、さらに取り巻く人たちがいかに福光の町の人たちに愛され、受け入れられているかを良く知ることができました。

最後に訪ねた、棟方志功の作品や柳宗悦などの民芸品、世界の民芸品の宝庫・光徳寺には本当に圧倒され、寺院全体が美術館であると言っても過言ではないでしょう。筆舌で語るより実際に出かけて、観て体感するところだと思いました。そしてお待ちかねの昼食は、山あいの秘湯・川合田温泉にていただきました。樽谷先生はじめ男性陣は清酒「成政」に舌鼓を、女性陣は美味しいお料理と温泉でホッコリとした一日でした。

これまで福光美術館や華山温泉などは訪ねたことがありましたが、今回知らなかった福光の魅力に出会えて本当に良かったです。これからも親しむ会のイベントを楽しみにしています。どうもありがとうございました。



鯉雨画齋



高岡市立博物館ボランティア募集

高岡市立博物館では、博物館事業・親しむ会事業の各種イベント時に手伝っていただけるボランティアを募集しています。

＜ボランティアの主な内容＞

- ・総会、呈茶の会、歩く博物館、走る博物館、屋上開放(桜の時期)、郷土学習講座等の受付など
- ・各種イベント時の駐車場誘導

●ボランティアの申込は博物館事務所に随時受付しております。



親しむ会 呈茶席

親しむ会ワークショップ部会では、毎年春と秋に各4回(計8回)、茶室「松聲庵」の掛待合にてお抹茶とお菓子をふるまう呈茶席をもうけています(土曜日、参加費300円)。茶道のお作法をご存じなくても、どなたでもお気軽にご参加いただけます。ぜひお越しください。

春の日程

4/20、4/27、5/11、5/18 午前11時～午後3時



茶室「松聲庵」のご案内

利用料：1日につき 4,000円(税別)



茶室「松聲庵」は、裏千家淡交会高岡支部 創設30周年を記念し、昭和46年10月に同支部から高岡市へ寄贈されました(現在は高岡市立博物館が管理)。設計は当時の支部長・在田宗貫氏。外観は切妻造で、前面に深い庇を下ろし、正面の貴人口は二枚引き違い腰障子で、周囲には下地窓、連子窓、風炉先窓がとられ、腰部分にはヒシギ竹が張りめぐらされています。庇の上の扁額「松聲庵」は、裏千家 第15代家元・千 宗室氏(現 鵬雲斎千玄室大宗匠)の書によるものです。内部は九畳本勝手下座床、水屋付きの茶室となっており、腰掛待合も備えられています。

なお、個人・団体等への貸し出しも行っておりますので、ぜひお気軽にご利用ください。



2019年度 会員募集のご案内

あなたも会員となって、郷土への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりに参加してみませんか。

- 主な活動
- ・博物館の諸活動の協力、支援
 - ・高岡地域の歴史と文化に親しみ、互いに親睦を図る活動
 - ・ミュージアムショップの運営 ほか

- 年会費
- ・一般会員 1口 1,000円
 - ・賛助会員 1口 5,000円

- 会員の特典
- ・企画展、特別展、講演会などのご案内
 - ・歩く博物館、走る博物館行事への参加、高岡古文書ボランティアでの活動、呈茶席などのご案内
 - ・会報誌「鍛冶丸」の送付・郷土学習講座等の受講料割引
 - ・図録の進呈(賛助会員のみ)

■申込方法

- 直接、事務局に申し込みする場合は、入会申込書に必要事項を記入のうえ、会費を添えて「高岡市立博物館に親しむ会」事務局へお越しください。入会申込書は「高岡市立博物館に親しむ会」のホームページに掲載しております。
- 郵便振り込みをご利用の場合は、振込用紙「払込取扱票」に以下の項目をご記入の上、郵便局にてお振込みください。なお、振込手数料は各自でご負担をお願いいたします。

- ・口座記号：00760-8
- ・口座番号：100749
- ・加入者名：高岡市立博物館に親しむ会
- ・金額：年会費の金額
- ・ご依頼人：郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、性別、年齢

親しむ会では、各種部会のメンバーを募集しています。

1. 研修部会 事業企画、歩く博物館等サポート
2. 広報部会 会報誌「鍛冶丸」の作成
3. ワークショップ部会 呈茶席運営・サポート
4. 高岡古文書ボランティア部会 古文書の整理等



あなたも「鍛冶丸」に投稿してみませんか？

親しむ会では、親しむ会行事に参加した体験談や、親しむ会に対する思いを寄せて下さる方を募集しています。投稿希望の方は、親しむ会事務局までお知らせ下さい。